

解説項目一覧（兼チェックリスト）

以下に列挙した解説項目は、すべてビデオの画面に字幕として表示されるものと同じです。

学習のためのチェックリストとしても使えるように、各解説項目の前にチェック欄を設けました。例えば、

「うん、確かにそうするのがいいと納得できる」

と感じたらチェックを入れたり、

「この着眼点はもう私の心に当たり前のこととして染み込んだから、別の曲を弾くときにも自分で応用できそうだ」

と感じたら黒く塗りつぶしたり、工夫してお使いください。

これらの解説項目のほとんどが「当たり前のこととしてあなたの心に染み込んだ」ときには、あなたのバッハ演奏は知識と感受性においてプロのチェンバロ演奏家に匹敵すると言ってよいでしょう。何となく弾く音、楽譜どおりに機械的に弾く音は一つもあってはならないものです。どうかあなたも繰り返し視聴して、バッハの楽譜の裏に潜む、バッハからのたくさんのメッセージを感じる豊かな心を育ててください。

1 曲目：前奏曲 ハ長調 BWV939

- (00'19") バッハの最も短い鍵盤曲
- (00'55") 楽譜どおりに弾くと・・・
- (01'45") あるべき姿で弾くと
- (02'37") チェンバロだと音色を選ぶ必要あり
- (03'23") 左手最低音を含むオクターブ→壮大
- (04'21") 前奏曲は本来即興で弾くもの→自由なリズムで緩急自在に
- (05'14") 1～3 小節：前奏曲の役割：主要 3 和音の提示
- (07'24") 4～5 小節：左手に主題、右手はシンプルな和音（オルガンの前奏曲に結構ある）
- (08'54") 6 小節後半～7 小節始め：弱さを表す
- (10'10") 8 小節始め：不協和音とその解決
- (11'12") 8 小節終わり～9 小節始め：左手が初めて 4 度跳躍→終止（rit する）
- (12'50") 9～11 小節：1～3 小節に対応
- (14'40") 13 小節：両手が細かく動く、右手最高音→盛り上がり（難しそうにしつこく弾く）
- (15'49") 14 小節：即興演奏→緩急自在に

- (17'47")15 小節後半～16 小節：終止→左手短く、最後の音の前では右手も短く（オルガンに由来）
- (20'21")（始めから終わりまで通して演奏）

2 曲目：インヴェンション 第 1 番 ハ長調 BWV772

- (00'20") 2 声だけれどチェンバロの音色なら 2 声でじゅうぶん充実→バッハを信じること
- (02'07")「ポリフォニーといえば声楽」という当時の共通認識あり
- (02'58") 2 声だけれど精神は合唱：歌詞を言えるテンポ
- (03'53")主題のフレージング：16 分休符が分かるように
- (04'32")歌で子音が入るようなところには、わずかにすき間を空ける
- (05'56")1 拍目と 3 拍目の最初の音は前のフレーズ→4 音均等に弾かない
- (07'13")2 小節：左手「強弱」＝「長短」
- (09'31")3～4 小節：主題の転回形
- (11'07")5 小節始め：不協和音（タイがあつたら繋留による不協和音）
- (12'27")カデンツ（6～7 小節、14～15 小節）で分けられる 3 部分
- (14'49")5～6 小節左手：順次進行は旋律らしくつなげる
- (15'47")7 小節 1 拍右手：休符を恐れない（左手に譲るという積極的な意味）
- (18'04")8 小節：左手の主題をよく聴かせる工夫
- (20'05")11 小節左手：最高音
- (22'34")13 小節始め：不協和音
- (24'14")13 小節後半～14 小節前半：両手で動く→盛り上がり（難しそうにしつこく弾く）
- (25'32")14 小節中：右手に減 5 度と減 7 度
- (28'02")15～18 小節：シンプル（直前とのコントラスト）、掛け合いの間合い
- (31'32")16、17、18、19 小節各始め：不協和音→保つ
- (34'08")装飾音で伸ばす可能性
- (35'29")20 小節：最高音
- (36'33")20 小節 4 拍：トリルを入れてもいい
- (37'06")21 小節後半右手：ここだけ歌えないのは右手が実質 2 声だから
- (38'07")21 小節終わり～22 小節：バロックでは最後の 2 または 3 音で急激な rit
- (38'59")22 小節：最低音
- (40'12")（始めから終わりまで通して演奏）

3 曲目前半：前奏曲とフーガ 第 1 番 ハ長調 BWV846 より 前奏曲

- (00'36")リュート風・・・指ペダル
- (01'27")5 声の音楽
- (02'16")リュート風・・・指ペダル
- (02'53")テンポは？ 1 小節の間で和音が変わらない・・・遅すぎない
- (03'49")初稿はもっとずっと短い
- (04'11")初稿は途中から和音で表記・・・即興的に自由なリズムで分散する
- (05'40")1～4 小節：主要 3 和音を提示（前奏曲の基本的な機能：後に続く曲の調を示す）
- (06'30")楽器の音域の中央（単音）から始まって楽器の音域の最低音で終わる
- (07'00")フーガは楽器の音域の中央（単音）から始まって楽器の音域の最高音で終わる
- (07'40")5 小節：楽器の音域の最高音までは 3 度の余裕
- (08'06")フーガの 20 小節：楽器の音域の最低音までは 3 度の余裕
- (08'36")5～6 小節：ソプラノ「ラレ」、7～8 小節：ソプラノ「ソド」、9～10 小節：バス「ラレ」
- (09'56")9 小節～11 小節：バスはカデンツの跳躍・・・明確に弾く
- (10'33")曲の始めからここまで演奏
- (11'16")8 小節：バスとテノールの短 2 度の表情
- (11'55")11 小節：冒頭に対応することが分かるように弾き始める（そして裏切る）
- (12'31")12 小節、14 小節：減七の和音は特別の表情で
- (13'02")15 小節：対照的に素晴らしく澄んだ響き
- (13'41")16 小節：バスとテノールの短 2 度の表情
- (13'56")17 小節～19 小節：バスはカデンツの跳躍・・・明確に弾く
- (14'28")11 小節からここまで演奏
- (14'57")19 小節：冒頭に対応することが分かるように弾き始める（そして裏切る）
- (16'00")21 小節～23 小節：ここだけ 3 小節のまとまり・・・居心地悪く弾く
- (17'25")22 小節：減七の和音は特別の表情で
- (17'36")22 小節～23 小節：バスの減 3 度は特別な表情（作曲の規則違反だったので）
- (18'00")23 小節：ものすごい不協和音
- (18'46")24 小節～：バスの属音保続（オルゲルプンクト）・・・もうすぐ終わりの合図
- (19'56")26～27 小節：終わりを予想させておいて（そして裏切る）
- (20'43")28 小節：減七の和音は特別の表情で
- (21'20")30～31 小節：終わりを予想させておいて（今度こそ終わる）
- (22'12")32 小節：ついに最低音
- (23'24")33 小節～34 小節 3 拍：右手は 3 音ずつのまとまり・・・即興演奏のように
- (24'42")（前奏曲を始めから終わりまで通して演奏）

3 曲目後半：前奏曲とフーガ 第 1 番 ハ長調 BWV846 より フーガ

- (00'25") 4つのパートが順に登場
- (01'16") 合唱風
- (02'07") エピソード（主題を弾かない繋ぎの部分）を持たない古い様式のフーガ
- (03'12") 24 回（曲集の曲数と同じ）の主題の入り
- (03'49") 主題の 8 分音符のアーティキュレーション：順次進行は子音でわずかに切れる感じ、跳躍進行は強い子音ではっきり分かれる感じ
- (05'25") 主題中の長めの 2 つの音：メッサ・ディ・ヴォーチェの効果を装飾音で表す可能性
- (07'10") 3 小節 1 拍：アルトは跳躍の所で大きくブレス
- (07'50") 4 小節 1 拍～2 拍：アルトは（母音で伸ばすなら）レガート、テノールは子音でわずかに切れる
- (08'59") 各声部のアーティキュレーションを弾き分けるのがフーガの醍醐味
- (09'59") 始めから 7 小節までを演奏
- (10'35") 7 小節：もうストレッタ（主題の途中でさらに主題を重ねる）
- (10'55") ストレッタ＝神が定めた数の比例の法則にかなう＝信仰心
- (13'29") 10 小節：ストレッタ
- (13'47") 12 小節 2 拍～3 拍：アルトの半音階は特別の表情で
- (14'45") 13 小節 1 拍裏：アクセントを速いアルペッジョで表す
- (15'22") 13 小節 3 拍：減七の和音の表情を遅いアルペッジョで表す
- (15'40") 13 小節 4 拍～14 小節：カデンツ・・・いけない表現が集中した部分が一区切りする
- (16'33") 7～14 小節までを演奏
- (17'23") 14 小節～：ストレッタの嵐
- (18'27") 15 小節：バスとソプラノが 2 拍 8 度のストレッタ
- (19'11") 16 小節～17 小節：ソプラノとテノールが 3 拍 3 度のストレッタ
- (19'51") 16 小節～17 小節：アルトとテノールが 2 拍 7 度のストレッタ
- (20'31") 17 小節：テノールとバスが 2 拍 5 度のストレッタ
- (21'49") 14～19 小節までを演奏
- (22'23") 19 小節：テノールとアルトが主音からでない入り
- (23'34") 19 小節 3 拍：ピカルディ終止
- (24'23") 19 小節 3 拍ソプラノ：アルトより早めに切り上げて「レソ」の誤解を防ぐ
- (25'41") 20 小節～21 小節：ソプラノとテノールが 3 拍 6 度のストレッタ
- (26'40") 21 小節 3 拍～：バスに長めの属音・・・もうすぐ終わりの合図
- (27'29") 23 小節 1 拍：バスが第 7 音で不安定な感じをアルペッジョで表す
- (28'17") 23 小節：上 3 声はアーティキュレーションで弾き分ける
- (30'02") 23 小節 4 拍～24 小節：カデンツ・・・わずかに rit
- (30'24") 24 小節～：バスの主音保続は途中で弾き直してよい
- (30'32") 25 小節 4 拍：3 声そろって動く→しつこく弾く

- (33'31")27 小節：ついに最高音
- (33'44")26 小節～27 小節：32 分音符は即興演奏・・・自由なリズムで
- (34'51") (フーガを始めから終わりまで通して演奏)